目　次

迂斎学話抄略について……吉田　澄夫……一

『かながきろんご』について……坂詰　力治……四一
——室町時代語資料としての考察——

清原宣賢系論語抄について……小林　賢次……七一
——書陵部蔵「魯論抄」の本文の性格をめぐって——

原因・理由を表わす「～サニ」の成立と衰退……柳田　征司……一〇三
——「史記抄」を資料として——

幸若舞曲の国語史資料としての価値……都竹通年雄……一三九

係り結びの現象について……梅原　恭則……一五五
——ハ・モの構文的職能——
「ます」と「です」……安田喜代門……一七九
古今全抄とその用語……外山　映次……二〇五
長年寺蔵『法宝蔵海』と接続辞サカイ……金田　弘……二二七
アンドンとアンドウ……坂梨　隆三……二三七
「ありんす・ありいす」の成立について……岸田　武夫……二六三
近世上方語におけるサカイとその周辺……小林　千草……二九九
安原貞室「かたこと」の文字・表記について……白木　進……三三五
将軍吉宗の命による諸藩の物産書提出の由来……島田　勇雄……三七三
露都創刊日本語典……吉町　義雄……三九九
稲村三伯小伝……杉本つとむ……四二五
——日本最初の本格的蘭和辞典の訳編者——
(付)海上随鷗『社盟録』
粋と意気との語彙的性格……大橋　紀子……四六九
日文をめぐる平田篤胤……江湖山恒明……五〇九
『古今集遠鏡』動物・植物・その他への呼びかけ……阿部　八郎……五三一
——その根拠と宣長の口語訳観——
『東海道中膝栗毛』に使われている擬音語・擬態語について……天沼　寧……五六一
『官版語彙活語指掌』『官版語彙別記』の俗語文法研究
史上における位置……永野　賢……五八九
上田万年博士と言文一致……山本　正秀……六二三
現代敬語の一側面……大石初太郎……六四九
——実地における敬語の意味——
『御湯殿上日記』にみえる接尾辞「ども」の用法……國田百合子……六六七
近代語学会研究発表記録……六九一

執筆者略歴……六九六

迂斎学話抄略について

吉田澄夫

がどのように成立したか、又、これが後世なぜ衰退したのかを、考察しようとする。『史記抄』の底本には京都大学附属図書館清家文庫本を用い[注2]、原典や注釈書を引用した部分の訓読例は除いた。

二　「〜サニ」の成立

㈠「サ」の用法中における「〜サニ」

京大本『史記抄』には、接尾辞「サ」が一六二例認められる[注3]。これらの「サ」をその用法によって類別すると、次の五種類に分けられる。

1「〜サニ」の形（「〜サテ」〈二例〉の形のものを含む）で原因・理由を表わすもの

2「〜サハ〜」の形で、「〜ことは〜けれども」の意を表わすもの（次の五例が全例）

○ヨサハヨケレトモ漸々ニハセイテ一コウニ削ラウトシタホトニ乱カテキタソ（七32ウ12）

○能見（アラ）――皆ヨサハヨケレトモ不足ナソ（一一33オ1）

○ヨサワヨケレトモ不審ナトテ尉史ニ其イワレヲ聞タレハ（一六13ウ5）

○人ノ小若党シテイルヲホイナウ思テ大名ノ内ノ者ニナリタサハナリタシナレハ本ノシウカ只ハヲクマイホトニ面白ク次第〳〵ニナラウトテ（二73オ9）

○惜哉残欠非才妄続残欠シタハ惜サハ惜ヨ。（或字一字墨消）非才トマテカワイケニ褚少孫ヲ云コトハアマリスキタソ（一九33オ2）

終りの二例も、なりたいことはなりたいけれども、惜しいことは惜しいけれどもの気持を表わしたものであろう。

3「〜サヨ」の形で、詠嘆の気持を表わすもの（次の三例が全例）

○不思議サヨ酒屋カ一ツノコリタ事ハト作タソ（三5ウ16）

○ニラマレテ月モミエス矢モハナサレヌソ。威勢ノヲソロシサヨソ（五17ウ7）

○是ホトニ地マテ引カセラレタカ罷メラレタ事ノアリカタサヨ（七17オ2）

4 右の特定の型の表現ではなく、単純な名詞として用いられたもの[注4]

○秦始皇カ死タヲカクシテ臭サヲマキラカサウトテ鮑魚ヲ車中ニ置タト云ソ。臭キ魚チヤケナソ（一八26ウ4）

○流水ニ浴メツヨク寒テ寒サカヤウタレハ大ニ熱シテカラ病出タソト云タレハ（一三22ウ12）

5 その他

○延袤（ツラナサニ）ハ袤ハ広袤ト云テ広ハヒロサソ。袤ハタ、サソ（一一52ウ1）

○曲ハ曲（ツブサニ）トヨム字チヤホトニ細小ナル義モアリ（三14オ8）

この二語に認められる「サ」も同じ接尾辞とされるものであるが[注5]、1から4の「サ」が形容詞・形容詞型助動詞・形容動詞のそれぞれ語幹についているのに対して、この語基は、そのいずれの形にもならない。そして、この時代に既に「タタサ」「ツブサ」の形で固定していたものと思われる。

以上の中、5を除いた四種の「サ」の用例数を見ると、表1のようになっており、1の「〜サニ」の用法の例が最も多い。

次に、それぞれの用法の例について、「サ」がついている語を、品詞別に類別して具体的に見ると次のようになっている。（数字は用例数。数字のないものは一例見えることを示す。表記は原本に従う。）

用法1「〜サニ」（「〜サデ」を含む）

<表1>

用法	用例数
1「〜サニ」	94
2「〜サハ〜」	5
3「〜サヨ」	3
4 単純名詞	58
計	160